

N I E 実践報告

霧島市立国分小学校

1 はじめに

本校は、霧島市の中央に位置し、全児童905名の学校である。

今年度で、NIE実践指定校として研究をはじめて4年目となる。新聞を活用することは、学力の向上につながるとともに、子どもたちの世の中の出来事に関する興味・関心を高めていけると考え全学年で実践に取り組んだ。

2 テーマ

新聞に親しみ、主体的に活用する子どもの育成

3 実践内容

- (1) N I E タイム (ファミリーフォーカス) の実施
- (2) N I E コーナー(新聞閲覧)の設置
- (3) 情報・掲示委員会としての取り組み
- (4) 授業の実践
- (5) 新聞社(ひろば覧)への投稿

4 研究の実際

(1) N I E タイムの実施

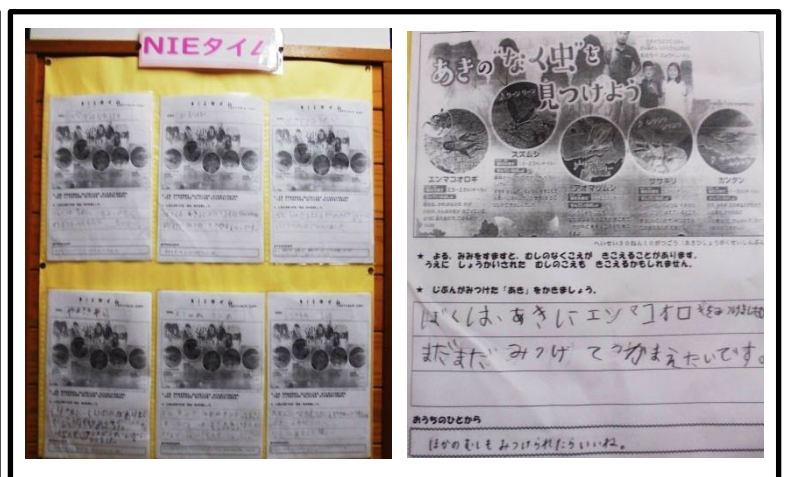
月1回、朝の活動の時間に「N I E タイム」を設定し、新聞を活用した取組を行った。内容は、それぞれの学年の実態を考慮しながら取り組んだ。さらに、その時間に使ったワークシートを学年・学校の掲示板に掲示し紹介することで、次の活動への意欲化を図った。

- [低学年]・・・
- ①新聞から知っている字を探して印をつける。(平仮名・カタカナ・漢字)
 - ②四コマまんがの吹き出し(セリフ)を、イメージを膨らませながら書く。
 - ③記事をワークシートに視写する。
 - ④季節に関する記事(写真)を見せて、考えを書く。

☆活動の様子☆



☆掲示板☆



[中学年・高学年]・・・①新聞記事を読み、その記事に対する自分の思いや考え等を
100字から150字程度の文章で書く。

②新聞記事をもとに作られたワークシートの問題を解く。

③まちがい探し(南日本新聞 クイズコーナー)

④新聞記事の視写(南風録)

⑤自分が気になった新聞記事の紹介

☆活動の様子☆



☆掲示板☆



☆新聞記事の紹介☆



(2) N I E コーナー(新聞閲覧)の設置

本校4棟2階にあるオープンスペースに新聞閲覧コーナーを設置し、子どもたちが進んで新聞を読める環境をつくった。朝の時間や昼休みの時間を中心にN I E コーナーに集まり、じっくり時間をかけて新聞を読んでいる姿が見られた。新聞は、新聞社ごとに分けて、日付順に並べてあり、自由に手に取って読むことができる。それ以前のものは、ロッカーに保存し記事をさかのぼって探せるようにしている。



(3) 情報・掲示委員会としての取り組み

情報掲示委員会の活動の一環として、「今月の喜怒哀楽」と題し、「喜・怒・哀・楽」の4つのテーマから選んだ記事をもとに、見出しと感想等を書き、N I Eコーナーに掲示した。国分小の子どもたちが、どんなことに興味をもっているか考えながら記事を探し、関心をもって読んでもらえるように感想を書いていた。

☆活動の様子☆

☆今月の「喜怒哀楽」☆



授業の実践

(ア) 教科

① 4年生の実践（国語科）

「新聞を書こう」

新聞に書かれている内容や新聞の書き方を学習した。南日本新聞社の岩松さんに来校してもらい、見出しや目次リード文等新聞について話をいただいた。その上で、当日の新聞を見て好きな記事を選び、自分が記者になったつもりで記事を書いた。



② 5年生の実践（国語科）

「新聞を読もう」

新聞の編集のしかたや記事の読み方を学習した。南日本新聞社の岩松さんに来校してもらい、新聞記事を読むときの着眼点や同じ出来事の記事の読み比べ等を指導していただいた。



③ 6年生の実践（社会科）

6年生では、社会科(歴史)で学習したことのまとめとして、歴史新聞を作成した。新聞を作成する上で、大切なポイント(見出しのつけ方・5W1H)を指導した。社説では、戦争に対する自分の考えや平和を願う思いなどが書かれていた。完成した新聞を互いに交流することで、学習したことをさらに深めることができた。



(5) 新聞社(ひろば覧)への投稿

新聞に親しみをもつために、「ひろば」への投稿を行っている。掲載されることで、新聞をより身近なものに感じている様子が見られた。

5 成果と課題

[成果]

- N I Eタイムの取組や、各学年の作品掲示を通して、子どもたちが新聞に興味・関心をもつとともに、文章を読んで自分の考えを書く力が身についた。
- N I Eタイムの取組の1つである「ファミリーフォーカス」を通して、親子で意見を出し合い、考えを深める活動ができた。また、親子のコミュニケーションを深めることができた。
- 国語科や社会科で調べたことを新聞にまとめる学習を通して、調べてわかったこと、考えたことをわかりやすく表現する力を高めることができた。
- N I Eコーナーを設置し、環境を工夫することで、子どもたちが新聞をより身近に感じられるようになり、子どもたちの社会の出来事に対する興味・関心が高まった。

[課題]

- 学年ごとのN I E担当の連携をより密なものにし、各学年の発達段階に応じた新聞活用について、常に共通理解を図る必要がある。
- 新聞社とより連携を図りながら、より多くの教科・領域で、新聞を活用した授業を、積極的に実践していく必要がある。
- これまでの取組を継続して実践していくとともに、さらなる新聞活用の研究を重ね、子どもたちの学力向上に根ざした取組を新たに実践していきたい。